



はなのき

神坂小学校だより No.6 2021.08.26



前期後半に向けて

校長 高橋 浩之

猛威をふるいつづける新型コロナウイルスや線状降水帯による自然の驚異など、この夏は昨年以上に不安が募る毎日でした。そんな中でも、3年生がホタルの世話を交代で行い、どの子も責任を感じながら取り組んでいました。

前期の前半を振り返ると、本校の課題の一つに「挨拶」が挙げられます。毎日、高学年の子が並んで挨拶活動をしてきています。学校の中は、一日中元気な挨拶が響き渡っています。挨拶は、どの社会でも、よりよい人間関係を築いていくために、とても大切だと思います。コミュニケーションの第一歩であるため、本校を含め、多くの学校で挨拶運動は大切に行われていると考えています。それは、挨拶が一朝一夕に身につくものではないからです。幼少期の週間は大人になってからも持続しますから、小学校のうちに身に付けておくことは大切なことだと考えているからです。子ども達は、周りの人の姿を見て成長を続けます。この挨拶も同じはずです。例えば、朝起きたとき、お母さんとおばあちゃんが仲良く挨拶を交わしている姿を目にして、自然に挨拶の素敵さを感じていきます。また、ご近所さんに出会ったら、挨拶をした後、楽しく会話をする姿を見て、挨拶の力を自然に感じ取ることができるはずです。

我々教職員は当然のことですが、大人が子どものためにも手本となるよう努力が必要になってきます。朝の挨拶だけでなく、様々な場面での挨拶も、毎日、私たち大人が笑顔で交わすように心がけていきたいです。私たち大人が挨拶している姿を見て、子どもは挨拶の仕方を学び、コミュニケーション能力を育てていきます。特に、身近な方との挨拶は、子どもと一緒にいることが多い場だからこそ大切に、大人が子どもたちの「手本」になりたいものです。

また、「ありがとう」や「ごめんなさい」という気持ちを伝える言葉も、大切な言葉です。自然と口にするかどうかは、挨拶同様に、大人が口にしていくかどうか大きいと考えられます。家族内では照れくさい気持ちもあるかもしれませんが、親しい関係であっても、心から「ありがとう」や「ごめんなさい」を言えるようにしていきたいです。そのためにも、学校では、相手の目を見て、心を込めて、気持ちを伝える経験を増やしていきたいと思います。是非、ご協力をお願いします。

2年ぶりの夏休み。各家庭でゆっくりと休めたことと思います。この夏休みは、オリンピックや高校野球、パラリンピックが開催され、“スポーツの夏”のようでした。しかし、コロナ禍や気象状況が安定しないせいで、家庭で過ごす機会が多かったことだと思います。ワクチン接種が進んでいますが、第5波の影響で、新型コロナウイルスによる感染者は増加する一方です。現在中津川市の感染状況は、とても危険な状況です。引き続き、各ご家庭でも感染防止対策をお願いします。

○外から室内に入るときには、手洗い、消毒を徹底します。

○人と接する時は、マスクを必ず着用します。

※熱中症対策として、運動などの活動時は距離を保ってマスクを外します。

○換気を心がけます。（冷房時でも換気を行います。）

○毎日、健康チェックを行い、自己管理を心がけます。

